

大英天文協會に招かれて

(November Meeting of the British Astronomical Association)

山 本 一 清

それは去る十一月下旬のことであつた。英蘇兩國の主な天文臺九ヶ所を見舞ふて、ロンドンの宿に歸り着くこゝに、大英天文協會々長の名を以つてC・D・P・デピス師から一通の手紙が届いてあつた、

「前略、E W モーニングダー氏からの知らせにより、貴君が此頃當地に御出になる事を伺ひました。ついでには、来る二十六日に我が天文協會の例會をザイオン學院の講堂で開きますから、若し御都合が悪くなければ、御來駕下されたく又、其の節、何か天文上のことにつき一場の御講演を御願ひしたく存じます。會は五時半頃から集まります。云々」

さかいてあつた。思ひがけない事ではあるが、此の有名な會の人々に出會へることを喜んで、自分は

「有難う。喜んで出席させて頂きます。」

こゝ、承諾の返事を出した。

所謂「大英天文協會」は、本名 British Astronomical Association

(略して B. A. A.) といひ、一八九〇年に創立されたものであるから、わが同好會と比べて正に三十年の先輩であるが、會の成り立ちや、目的などはよく相似てゐる。會員は男女の如何を問はず、天文好きの者は誰でも入會が出来、現在一千名を算し、其の多くは素人天文家である。目的は會の規則に據れば、

- (一) 天體を觀る人々の團體であつて、特に小望遠鏡を持つ人々の團結と協力とを促し、天文觀測上の便宜を圖る、
 - (二) 時々の天文關係事項を通知し合ふ、
 - (三) 天文學に關する一般興味の普及を促がす、
- 等であつて、現に行つてゐる事業としては
- (一) 會員を若干の觀測部に分け、各部に部長を置いて、實際觀測に便宜を與へ、且つ獎勵してゐる、
 - (二) 雜誌 Journal を發行して、會の例會や觀測部の報告をし、又、會員の寄せた論文や、報告や、時々の天文上の事件を報ずる、

(三) 地方及び植民地などに支部を設け、

(四) ロンドン及び各地支部所在地に集會を催し、

(五) 圖書部を設け、又、天文器械や幻燈畫を所有して、會員の使用に便利を與へる
等である。

今の幹部は、C・D・P・アデプス師を會長とし、副會長四人會計一人、書記二人、圖書掛一人及び評議員九人より成り、觀測部としては、太陽部、月部、水星及金星部、火星部、木星部、土星部、彗星部、流星部、黃道光及び北極光部、變光星部、天體寫真部、分光學部、觀測方法部、計算部の十四部があつて、各々經驗と學識のある人々が部長として會員を指導してゐる。

又、出版係はモーンダー夫人が主な役で、毎月 Journal を發行し、又、時々、觀測部員の報告をまとめて Memoirs を出し、更に數年前からは、毎年、一年中の天文事項を豫告した Yearbook を出し、尙、天文急報のためには B. A. A. Circular を時々發行するやうになつた。

かうして、元々、素人の會とはいへ、創立以來種々の方面に活動し、天文學の進歩の上に、又、知識普及のためには大なる效績を擧げてゐる。

* * * * *

さて、十一月二十六日の水曜日午後五時すぎ、自分は雨の中をザイオン學院に着き、中に入るに、會の時刻までには未

だ少し早いらしく、集會の室には誰もゐない程であつたが、入口で案内してくれた人にきいて見るに、「今、階上で評議員會が開かれてゐます」こいふ返事であつた。

五時半頃になると、漸く多くの人々が集まつて來、二階からは評議員たちも降りて來て、室は俄かに賑やかな話し聲で一パイになり、人々は交る／＼茶果の用意してあるテーブルへ集つて、こゝ暫くは全くの社交會になつた。

自分は、始め、E・W・モーンダー博士に捕へられ、それからモーンダー夫人や、會長デプス師に紹介せられ、次いで A・C・D・クロンメルン博士に紹介され、例によつて、日本のこゝやら、今までの旅行のこゝやら、いろ／＼話した。クロンメルン氏は京都のナカムラ要君と東京の氣象臺の中村博士とを間違へて「プロフェサーナカムラが彗星を發見したのですか」なご言つてゐられた。

六時頃、集る人々が大い揃つたのを見て、會長は一同を別室の講演場に案内し、こゝに例會が始まることになつた。始めに、書記の報告や新入會員の紹介なごがあり、其れがすむと、會長は

「日本の天文學者ミスタ・ヤマモトに御講演を願ひます」
と、自分を招かれた。自分は、まへの打ち合せにより、此の日は日本の天文について一通り話つもりでは居たが、モーンダー夫人の注文もあつたりしたものだから、まづ二年間アメ

リカの各地に居たここから口を切り、ボン星表中の變光星の統計(天界第四十七號所載)の結果をあらまし述べ、それから最後に日本の天文に移った。同好會については、

「三年を出でない内に會員數が一千を突破したことは、私共にも實に意外とする所でありました」
 と言つたところが、拍手喝采であつた。

自分の講演は約半時間にして終り、次でE・E・マーク井ツク大佐が「アルゴール型變光星九つ」三題で、十數年にわたり此の天文協會の會員たちが觀測した此の種の變光星の觀測整理の結果を報告した。星は白鳥のU星外八個であつて、中にはペルセウスのベ星の如く、古くから多くの人々に觀測せられ、可なり馴染みの星もあつたので面白かつた。

次に、アトキンス氏は火星觀測の報告をした。氏は、かつて中村要君が天界誌上に書いた如く、今夏八時半の反射鏡を携へて、火星觀測のため、太西洋上のマデイラ島にまで單騎遠征を試みた人である。今年の火星は珍らしく地球に近接したに拘らず、赤緯が低かつたため、英本國での觀測は全く駄目であつたのに、此のアトキンス氏のみは態々南海の孤島に出かけて或る收獲を齎したのであるから、一同は大満足であつた。只、氏の孤島滞在が、八月二十日から九月二日まで、僅か二週間足らずであり、尙、始めの四五日は非常に空氣が悪かつたため觀測をさまたげたここなごは遺憾な點であつた

氏の講演にはマデイラ島の景色が幻燈として寫し出されたりして興味を助けた。

アトキンス氏の講演に因んで、R・バーカー氏はローエル天文臺から送られた一枚の幻燈畫を示した。之れにE・C・スライファ氏が一九一六年に眼視觀測したもの、又、寫眞に撮つたもの、それに尙、眼視スケツクを寫眞に撮つたものを示したものであつて、自分は昨秋此の種の原板をローエル天文臺でスライファ氏自身から見せて貰つたものであるが、此の日此の會の出しものとしては大變に興味深いものであつた。最後にデギス會長はクロンメルン博士を演壇に招いた。氏

は一枚の原稿紙を手にして、老體を壇上に運び、此頃の學界の評判ものである「バーデ小遊星」について、最近の研究に基づく種々の點を述べられた。こんごのバーデ星は其の軌道の傾きも可なり大きく、又、光輝も頗る大きくて、珍らしいものなることを述べ、

「此のバーデ星は、アルバート(第七一九番小遊星)やアリンダ(第八八九番星)と共に、平山博士の所謂小遊星族をなすものこそ考へます」

と結ばれた。

會々マートン氏が、グリーン井チ天文臺で撮られた此の星の寫眞を幻燈に寫し、其の運行の速かなことを示されたのは好い思ひ付きであつた。

かうして、此の日の會は閉ぢられた。自分は其の夜の汽車で、直く佛國パリへ立つ筈であつたため、閉會後、大急ぎで會場を飛び出してつたから、後の事は知らないが、思ふに、尙ほ、小半時間はどの間は、人々は今日の講演者などを圍んで、質問や歡談を試み、愉快な一夕を過して、家路についた

雜 念 雜 話

月は美しい、星は如何にもきれいです。かうしてぢつと空をみつめてゐますとつい美しさにひきつけられてうつみりこしてしまいます。極樂淨土は西方十萬億土のあなたにある天國は何キロメートルの所にあるか知らないけれど或はあの星のあたりにあるのではあるまいかといふやうな想像の湧くのも無理はございません。然しながらひるがへつて考へてみま

ここであらう。

集つた人々の數は、一寸見たところ、百五六十人もあつたかと思ふ。勿論、男も女も合せて。

(一九二四、十二、三。パリの宿にて)

川 崎 俊 一

があの明星を見る様に美しい光を放つてをります。更に月から地球を見たといひませう、その時地球はそんなに麗しい事か。高くすむあの月にもまして、その十數倍も大きくそれよりも明る照りまします。三日月の時氣をつけて御覽なさい、利鎌の様に鋭く光つた部分の外に一帶にうす赤く月全體の姿が見えるでせう。あれは月が地球の光に照されてゐるのです。地球が月と同じ様に光つてゐる證據なのです。三日月の頃月から地球を見たならば地球は満月の様にまんまるく見えま

す。満月の前後に月から地球を見たならば地球は三日月の様にやさしい姿をして居ます。かうして月に人が居て、月宮殿の月姫が玉の宮居の御簾をかゝけてみ空の地球を仰いだなら、